

1

暗い

旅

写真

冬服

礼

勝負

2

お母さんに

みんなにか

工  
ア

香帆のお

へえ

イ

れ

だ

ア  
工

知  
っ  
て  
い  
る

突  
然  
会  
え  
な

3

魚

振  
り  
返  
る

イ

ウ

魚  
の  
お  
い  
る  
人

イ

工

ウ

A  
・  
D

ア

鮮  
魚  
の  
壁

配点	
1	各2点×6=12点
2・3	各4点×22=88点
〈計〉100点	

- 1 「暗」の左側と右下部分は両方「日」である。
- 2 「旅」の右側部分を「衣」と書かないように気をつけよう。
- 3 「写」の三画目は右上から左下に向かって「ノ」のようにはらうのではなく、左から右に向かって「一」のように書こう。
- 4 「服」の五画目は「フ」のようにすぐにはらうのではなく、下におろしてから左上に向かってはね上げよう。
- 5 「礼」の部首はしめすへんである。ころもへんにしないように気をつけよう。
- 6 「勝」の右上部分の横棒は二本である。また、右下の部分を「刀」にしないよう気をつけよう。「負」のはじめの二画を「マ」にしてはいけない。

2

- 1 線⑥の前後のぼくとお母さんの会話から、今日遊ばなかったのはお母さんと何か関係があると思われる。智博の「輝ちやーん、バイバイ」はもちろんぼくのお母さんの真似である。本文二行目の「笑い声もする」、三行目の「ぼくは智博たちを無視して」といったところから、あまりよくない意味で真似をしているイメージがつかめただろうか。
- 2 線②の前だけを見ると、笠野先生がぼくに向けて言ったように見えるかもしれない。きちんと前後を確認しよう。このあとでは香帆が花を選んでいるのだから、言われているのは香帆と考えることができる。
- 3 ここより前をきちんと読めばそれほど難しくはなかっただろう。「プレゼント」だと思った花は実は「仏壇にかざる」ためのものだったのである。
- 4 「お母さんと二人きり」なのはぼくだけでなく香帆でもある。香帆もお父さんを亡くすというつらい経験をしているので、ぼくの話を自分のことのように感じたのだろう。
- 5 「われに返る」は「正気づく」「意識をとりもどす」という意味である。「だだをこねる」は「おさない子どもが、自分の思い通りにならないときに、泣いたりあべれたりして、わがままを言う」ことである。
- 6 線⑥のあとで「小学校に入学したばかりのころ」の話になっているが、「お母さんが悪いわけではない」ということと関係があるのではないかと考えてほしい。読み進めていくと、お母さんが学校に行くのがこわかったばかりを学校にいかせるために、ベランダに出てきて見送ってくれたことがわかる。また、そのまま最後まで読み進めていくと、「これはもう塚原家の習慣なのだ」ともあった。これらのことからアとエが答えとして適切だということになる。
- 7 どういうことが「こわかった」からかときかれているのだから、本文中、特にここでは——線⑦の前後に「こわかった」に近い意味を持つことがないかどうかを気をつけて見てほしい。すると、すぐあとに「こわかったのだ」とあり、さらにそのあとに「恐怖におびえていたのだ」とあった。

3

- 1 ①のあとに「面倒な」部分について書かれていたのはわかっただろう。もちろん「魚」のことである。
- 2 線②の前後を読むと、「魚食」が「人から忌避されやすくなるような『便利』な時代の説明を探していけばいいとわかる。本文全体から「魚食」は時間がかかったり手間がかかったりするものであるということがわかるだろう。そういうものだからこそ、時間も手間もかからずすぐ食べられるものを人は選んでしまうのだろう。
- 3 Iについて、「それ」は直前の「人から忌避されやすい要素」のことである。さらにそれより前の部分に、「忌避されやすい要素」が具体的に書かれていた。あとは選択肢ときちんと見比べよう。IIについては、答えの箇所前後に似たような表現がいくつか見られたが、「おいしいものを食べたいと考える人」や「よりおいしさを知っている人」では答えとして不十分だろう。「魚食をしようという人」のことを聞かれているのだから「魚」について触れているところを答えにしたい。
- 4 直後に「市場で魚を見ているだけでも楽しめる人たち」とあるので、売る側ではなく買う側のことについて書かれたものを選ぶ。
- 5 エの「もはや」は「今となっては」「すでに」という意味である。ほかのそれぞれのことばがどういう意味を持つのか、ぜひ調べておこう。
- 6 直後に「その後『減った』が『増えた』を引き離し」とあるので、それまでも「減った」方が上回っていたことがわかる。そして、「それでも今なお」とあるので、その後も上回っているのはやはり「減った」なのである。
- 7 魚食を選択しない人が増えると鮮魚売場も縮小され、店頭付きの魚がまねな存在になる、ということは、鮮魚売場でありながら、尾頭のない加工された魚ばかりになる、ということである。
- 8 二つ目の⑦の直後に「その壁」とあることから、⑦には「壁」ということばがはいるのはわかっただろう。あとは、人々が「魚食」から離れていったのはどういう壁があったからか、考えよう。